

第40期末

貸借対照表

平成30年3月31日現在

(単位:千円)

| 資産の部 | | 負債・純資産の部 | |
|---------------|-----------|-------------------|-----------|
| 科目 | 残高 | 科目 | 残高 |
| (資産の部) | | (負債の部) | |
| 流動資産 | 1,154,029 | 流動負債 | 91,231 |
| 当座預金 | 501,441 | 未払金 | 40,171 |
| 普通預金 | 74,660 | 預り金 | 5,181 |
| 定期預金 | 400,000 | 未払費用 | 38,675 |
| 売掛金 | 171,580 | 賞与引当金 | 7,203 |
| 貯蔵品 | 570 | | |
| 未収金 | 2,735 | 固定負債 | 138,844 |
| 立替金 | 122 | 退職給与引当金 | 134,476 |
| 未収消費税 | 2,454 | 役員退任慰労積立金 | 4,368 |
| 未収収益 | 464 | | |
| | | 負債の部合計 | 230,075 |
| 固定資産 | 937,788 | | |
| (有形固定資産) | 309,290 | (純資産の部) | |
| 建物附属設備 | 4,120 | 株主資本 | 1,861,742 |
| 器具・備品 | 305,170 | (資本金) | 350,000 |
| (無形固定資産) | 627,714 | 資本金 | 350,000 |
| ソフトウェア | 608,058 | (利益剰余金) | 1,511,742 |
| ソフトウェア仮勘定 | 19,656 | 利益準備金 | 87,500 |
| (投資等) | 783 | 目的積立金 | 440,000 |
| 外部出資 | 783 | 別途積立金 | 257,000 |
| | | 繰越利益剰余金 | 727,242 |
| | | (うち当期純利益) | 23,444 |
| | | 純資産の部合計 | 1,861,742 |
| 資産の部合計 | 2,091,817 | 負債・純資産の部合計 | 2,091,817 |

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。)

個別注記表

I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 棚卸資産の評価基準及び評価方法
個別法に基づく最終仕入原価法による。
2. 有価証券の評価基準及び評価方法
移動平均法に基づく原価法による。
3. 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産
定率法による。
 - (2) 無形固定資産
定額法による。
4. 引当金の計上基準
 - (1) 貸倒引当金
2か月以上延滞している債権の全額を引き当てる。
 - (2) 退職給与引当金
従業員の退職給付に備えるため、従業員退職給与規程に基づく自己都合退職による期末要支給額から、(一財)静岡県農協共済会との職員退職給付契約に基づく給付金の総額を控除した額を計上している。
 - (3) 賞与引当金
従業員の賞与支給に備えるため、次年度の夏季賞与支給見込額のうち当事業年度に帰属する額を計上している。
 - (4) 役員退任慰労積立金
役員の退任慰労金の支給に備えるため、役員退任慰労金積立基準に基づき期末要支給額を計上している。
5. システム維持管理積立金の計上基準等
 - (1) 目的
この積立金は、システム稼働後の機器更新および保全などシステムを維持管理するために必要な経費の増加に対応し、会社経営の健全な発展を図るとともに、地震等の災害による会社資産の多大の損失等に備えることを目的に積み立てる。
 - (2) 積立目標額
この積立金の積立額は、4億円を限度とする。
 - (3) 積立基準
この積立金は、毎事業年度の当期純利益の範囲内で積み立てる。
 - (4) 取崩基準
この積立金は次の場合に相当額を取り崩すことができる。
 - ア. システム稼働後の機器更新、開発、運用等に多額の出費が生じた場合
 - イ. 地震等の災害によって次の損失が発生した場合
 - ① 固定資産、棚卸資産が被災し、多大の損失が発生したとき。
 - ② ①により当社の事業が停滞し、多大の損失が発生したとき。
 - ③ 資産における耐震工事により多大の費用が発生したとき。
 - (5) 積立および取崩の決議
積立および取崩の決議は、株主総会の剰余金の処分において行う。
6. 経営安定化積立金の計上基準等
 - (1) 目的
この積立金は、不測の事態が発生して多額の支出を要することとなった場合に対応し、会社経営の健全な発展を図ることを目的に積み立てる。
 - (2) 積立目標額
この積立金の積立額は、4億円を限度とする。

- (3) 積立基準
この積立金は、毎事業年度の当期純利益の範囲内で積み立てる。
 - (4) 取崩基準
この積立金は、不測の事態が発生して多額の支出を要することとなった場合に
取り崩すことができる。
 - (5) 積立および取崩の決議
積立および取崩の決議は、株主総会の剰余金の処分において行う。
- 7. リース取引の処理方法
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・
リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理による。
 - 8. 消費税の会計処理方法
消費税の会計処理は、税抜方式による。
 - 9. 記載金額の端数処理
記載金額は単位未満を切り捨てて表示しており、単位未満の金額については
「0」で表示している。
 - 10. 会計方針の変更
該当事項はない。
 - 11. 重要な後発事象に関する事項
該当事項はない。

II. 貸借対照表に関する注記

- 1. 未収消費税に関する事項
未収消費税は1月から3月の消費税確定申告による還付予定額を表示している。

III. 株主資本等変動計算書に関する注記

- 1. 発行済株式に関する事項

| 発行済株式 | 前期末株式数 | 当期末株式数 | 摘 要 |
|-------|---------|---------|-----|
| | 35,000株 | 35,000株 | |

- 2. 配当に関する事項

- (1) 当事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項
平成29年6月30日の定時株主総会において次の通り決議された。

| 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額 | 1株あたりの 配当額 | 基準日 | 効力発生日 |
|-------|-------|-------------|---------------|----------------|---------------|
| 普通株式 | 利益剰余金 | 10,500,000円 | 300円 | 平成29年 3月31日 | 平成29年 7月6日 |

IV. リースにより使用する固定資産に関する注記

リース契約により使用する重要な固定資産はない。

V. 一株当たり情報に関する注記

- 1. 一株当たりの純資産額 53,192円
- 2. 一株当たりの当期純利益 669円